



油山寺の山門は明治6年(1873)、かつての掛川藩主の太田備中守が眼病全快のお礼として寄進した掛川城の大手門です。

## 明治・大正・昭和期の 建設工事写真シリーズ

(写真・資料提供/油山寺 鈴木快光住職) 昭和44年1月 竣工

### 重要文化財油山寺三重塔及本堂内厨子修理工事(袋井市村松)



竣工 西南面

三重塔修理前



東北面

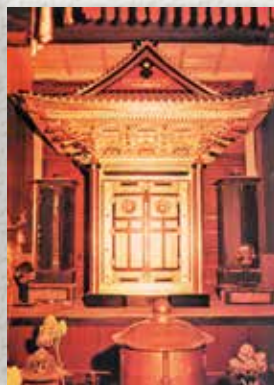


三重の尾極

尾極は松材で雨漏りのため 仕口部分の腐食が多かった。尾極尻の束も当初のもの。

文化財保護法に基づき国庫、県費、市費補助金と所有者負担金の総経費金21,780,000円で昭和42年7月より昭和44年1月の19ヶ月にわたり解体修理を行い、その間綿密な調査と発見資料にもとづき、文化庁の許可を受けて現状変更して創建当初の状態に復しました。

### 本堂内厨子



竣工 正面



修理前 正面

厨子は屋根、軒廻り、斗拱までの破損と剥落が甚だしかったので、台輪までを解体し、破損部分を繕い、欠失部分を復元し彩色、金箔押し、全体を塗装した。

油山寺の三重塔は、銅板葺き、1、2層は和様、3層は唐様で、屋根の反りや枅組が美しい塔です。建久元年(1190)源頼朝が眼病全快のお礼に建立したものです。その後、武田・今川の兵火にあい焼失しました。天正2年(1574)再建に着手、久野城主久野丹波守宗成の援助により、慶長16年(1611)に36年間を要して完成しました。

塔の高さは18.25m、相輪を含めた高さは23.88m。相輪は水煙でなく宝瓶の形をした珍しいもので、桃山期の姿を今に伝えています。滋賀県の長命寺、京都府の宝積寺の三重塔とともに桃山の三名塔の一つに数えられています。静岡県最古の塔で国の重要文化財に指定されています。



遠州三山 自分巡礼の旅 案内図(袋井市観光協会)より引用